

Ⅰ 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
 - b 脱字。
 - c 文末の句点の脱落。
 - d ※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
 - e その他不適切と判断せざるをえない箇所。
- 理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
- ※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

一

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 明らかな誤字、語句・接続語・助詞等の誤用はそのつどマイナス1点。
- ③ 正答の要素を含んでも説明の方向性が全くズレしていると判断される答案は0点としてよい。

※ 問一・問四は解答例のみ正解とする。問一の読みが平仮名になっている場合は0点。

問一 各2点 解答通り

- a 余技 b スイコウ c 尋常 d 逸話 e ジュンノウ
- f シサ g モヨオ h ホマ i 犠牲 j 鼓舞

問二

基準 配点12点

■模範解答例

A 軍事的な事柄に専心しなければならない戦時において、直接的な戦争遂行能力がなく、戦争手段ともなりえない音楽が社会から姿を消し、その活動の休止状態が続くということ。
D E B C

■字数…八十字 三十九字以下のもは全体不可(0点)

■要素A「軍事的な事柄に専心しなければならない戦時において」…3点

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「直接的な戦争遂行能力がなく」…2点

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「戦争手段ともなりえない(音楽)」…2点

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「(音楽が)社会から姿を消し」…2点

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「その(音楽の)活動の休止状態が続く」…3点

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「…(という)こと」という形が原則的な文末表現。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点4点

■模範解答例

A 模範解答例 B 戦争の長期化により 国家の資源の総動員という新たな種類の戦争遂行が必要となり、精神的、芸術的な事柄に対しても、国内的には人々の心を落ち着かせて彼らを勇気づけ、国外に対しては自国の正当性を宣伝する」という役割が求められたから。

■字数：百十字 五十四字以下のものは全体不可（0点）

- 要素A 「戦争の長期化により」…2点
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素B 「国家の資源の総動員という新たな種類の戦争遂行が必要となり」…4点
- ・「国家の資源の総動員」「新たな種類の戦争遂行」の二項に2点ずつ与えるという目安。それぞれの項目について説明が曖昧と判断される場合は、それぞれから1点減点する。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

- 要素C 「精神的、芸術的な事柄に対して」…2点
- ・「精神的」は欠いていても可。
- ・「精神的、芸術的な事柄」を「文化」あるいは「音楽」としている場合は1点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素D 「国内的には人々の心を落ち着かせて彼らを勇気づけ」…3点
- ・「勇気づけ」を「鼓舞し」とするなど可。
- ・「心を落ち着かせ」と「勇気づけ」のいずれか一つしか示されていない場合は2点。
- ・「国内的には」、に相当する説明を欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素E 「国外に対しては自国の正当性を宣伝する」…3点
- ・「国外に対しては」に相当する説明を欠く場合は2点。
- ・「自国の正当性」に相当する説明を欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素F 「…から…ので」が原則的な文末表現の形。但し、理由説明答案として許容できる文末表現にならなければよい。不適切な文末表現であると判断される場合は1点減点。

問四 各4点 解答通り

1 || エ 2 || イ 3 || オ

問五

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例

A

B

C

社会的有用性を誇示し 体制に迎合するのと引き換えに、芸術が自分のアイデンティティを失ってしまうこと。

■字数…五十字 二十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 「社会的有用性を誇示し」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B 「体制に迎合する」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「芸術が自分のアイデンティティを失ってしまう」…4点

- ・「芸術が」という主語は、答案の前の方にあっても可。
- ・「アイデンティティを失ってしまう」を「芸術の価値を低下させる」といった説明をしている場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 文末表現は「…(という)こと」が原則。不適切な文末表現であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素参照

基準 配点4点

■模範解答例

A 慈善や慰問と銘打たれたポピュラー・コンサートは、庶民向けであり全国的な催しであることをアピール

C D E し、音楽家を窮状から救ったが、結局は体制に無害な宣伝用の三流音楽の隆盛に過ぎず、音楽の芸術的水準

の低下を招いたと考えている。

■字数：百十字 五十四字以下のものは全体不可（0点）

- 要素A 「慈善や慰問と銘打たれたポピュラー・コンサート」…3点
 - ・「ポピュラー・コンサート」が「慈善」「慰問」を建前としたということが説明できていれば可。
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素B 「庶民向けであり全国的な催しである」…3点
 - ・「庶民向け」「全国的な催し」のいずれかを欠く場合は2点。
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素C 「音楽家を窮状から救った」…2点
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素D 「体制に無害な宣伝用の三流音楽の隆盛」…3点
 - ・「三流音楽の隆盛」という説明はなくても可。
 - ・「体制に無害」「宣伝用」のいずれかを欠く場合は2点。
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素E 「音楽の芸術的水準の低下を招いた」…3点
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素F 「どのように考えているか」という設問の問い方に対応していると判断できる文末表現なら可。不適切な文末表現であると判断される場合は1点減点。

二(宮河歌合)

問一 ア 配点：9点

■現代語訳の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答

a b c d

私の浅い見識が見えてしまうことをはばかりでなく

■要素a 私の：1点

・書き手である定家Ⅱ「私」の。定家以外は○。

■要素b 浅い見識が：2点

・「浅い・浅薄な・うすっぺらい」など同義であれば可。①点

・和歌の「見識・理解・知識」など。「和歌の」はなくても可①点。「色」のままは不可。

■要素c 見えてしまうことを：1点

・「見えてしまうこと・見えるようなこと・見えるだろうこと・見えること」①点。婉曲は不問。

■要素d はばかりだけでなく：5点

・「はばかり・遠慮する・気兼ねする・気後れする・つつしむ・恐れる・心配する」などの心情語。②点 (直前の「恐れ」と対)

・限定「だけ」①点+断定「で」①点+打消「なく」①点。

(別解 限定「のみ」①点+断定「なら」①点+打消「ず」①点)

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問一 イ

配点：8点

■現代語訳の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点是不問

■模範解答

a
b
c
d

□にすべき言葉も考えつきませんので

■要素 a □にすべき：2点

・「□に出して言うべき・言うべき・人前で言うべき」など、考えているのではなく、人目にさらされる言葉にすることがわかれば可。「べき」は「はずの」でも可。

■要素 b 言葉も：1点

・「ことも」も可。

■要素 c 考えつき：2点

・「思いつき・思い浮かび・考え・思い」も可。
・「られ」は自発ではなく可能として「思いつけ・考えられ・思い浮かぶことができ」なども可。

■要素 d ません：2点

・「です・ます」(謙讓語)「申し上げる」も許容(①点+打消①点)

■要素 e ので：1点

・原因・理由「ので・から・ため」など

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問一ウ

配点：9点

■ 現代語訳の問題

■ 採点方法：各要素単独採点

■ 字数制限無し

■ 形式上の不備 ・ 文末表現 ・ 句読点は不問

■ 模範解答

a

b

c

d

e

判詞を書くという西行上人との約束をお受け申し上げることも、この世限りのかりそめの御縁

f

ではなく

■ 要素 a 判詞を書くという：1点

- ・ 約束の内容「西行上人の歌合の判詞を書く」ことを正しく説明していれば可。
- 最低限「判詞」を「書く」があること。

■ 要素 b 西行上人との約束を：2点

- ・ 「聖・西行・上人」などにしても可。①点。
- ・ 「約束・御縁」①点。

■ 要素 c お受け申し上げることも：2点

- ・ 尊重する・受ける・拜命する・引き受ける」なども可。
- ・ 謙譲語「申し上げる・おくる」など①点。

■ 要素 d この世限りの：1点

- ・ 「現世だけの」なども可。

■ 要素 e かりそめの御縁：2点

- ・ 「かりそめの・むなしい・はかない」①点
- ・ 「縁・縁故・つきあい・つながり」など①点

■ 要素 f ではなく：1点

- ・ 断定「で」+打消「なく」。完答①点

■ その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問一 エ

配点…10点

■現代語訳の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答

a

b

c

d

e

「あなたに判詞を依頼するのは思う理由がある、やはり必ず判詞をやり遂げなさい」とお言葉が

f

ありましたので

■要素 a あなたに判詞を依頼するのは…2点

・具体的に「定家に」「判詞を依頼すること・判詞を書かせること」。各①点

■要素 b 思う理由がある…2点

・「考えるところがある」①点。意図があつてのことだという意味表示がわかれば可。

■要素 c やはり必ず…1点

・「やはり」は「それでも・もっと」などでも可。

■要素 d 判詞をやり遂げなさい…2点

・「判詞を」は a d のどちらかにあればよい。

・「努力しなさい・励みなさい・やり遂げなさい」など。

■要素 e お言葉がありました…2点

・西行の「依頼・言葉・念押し・催促」などを補う。①点

・丁寧語「あります」①点

*「おっしゃったので」は「言葉がある」に尊敬が足されてしまっているので△①点。

■要素 f たので…1点

・過去「た」＋原因理由「ので・から・ため」。完答①点

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問二 配点…12点

■和歌の解釈の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答

a

b

c

d

春秋ごとにあなたが私の歌と人生とを思い出してくれるのならば、私はまた月や花が美しい季節

e

ごことにあなたに歌をお送りしましょう。

■要素a 春秋ごとにあなたが私の歌と人生とを思い出してくれる…3点

・「あなた（定家）が」①点

・「春秋ごとに私の歌と人生を思い出す」②点

■要素b ならば…2点

・仮定条件であることがわかれば可

■要素c 私は…2点

・「私（西行）は」

■要素d 月や花が美しい季節ごとに…2点

・「季節ごとに・四季折々に」など。具体的に月や花などの景物がなくても可。

■要素e 私はあなたに歌をお送りしよう…3点

・「私（西行）は」「あなた（定家）に」「歌を送ろう・詠もう」という意思」の三点各①点。

*ただし「私はあなたに」は他の箇所（cやdなど）にあってもよい。

・敬語の有無は不問。

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問三

配点：12点

■ 本文全体の理由説明の問題

■ 採点方法：各要素単独採点

■ 字数制限無し

■ 形式上の不備 ・ 文末は「理由・から」などの形式であること。句読点は不問。

■ 模範解答

a

b

c

判詞を書くという西行との約束を果たすことは、この世限り縁ではなく、仏道の悟りに至る縁と

d

e

なる上、侍従の身分で滞っている自分の前途が開けるのではないかという理由。

■ 要素 a 判詞を書くという西行との約束を果たすことは：2点

・ 「判詞を書くこと」が入っていること。西行との約束の履行はなくても可。

■ 要素 b この世限り縁ではなく：2点

・ 現世限りの縁ではなく、宿縁であることがわかれば可。

■ 要素 c 仏道の悟りに至る縁となる：3点

・ 自分の仏道において悟りを開く縁となることがわかれば可。結縁。

■ 要素 d 侍従の身分で滞っている自分の前途が開けるのではないか：3点

・ 「侍従」という身分から出世するのではないかという望みがわかれば可。

宮川が伊勢神宮の川であることは書かなくて可。

■ 要素 e 理由：1点

・ 「理由・ので・から・ため」など理由説明にふさわしい文末であること。

■ その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

★2021年度 第3回名大本番レベル模試

三 採点基準

※ 60点満点

問一 各2点

a あたはず

b さき

c すでにして

※解答通り

※カタカナ書きは不可

※「あたわず」は△1点マイナス

※「さきに」「さきの」は 0点

※「すでに」も可。

問二 7点

A 2点

天にも地にもすべて過ちがあるのに

B 1点

結局、

C 2点

世界を覆ったり載せたりすることに問題がない

D 2点

のはどうしてか。

採点のポイント

※説明問題ではないので文末を「〜ということ」のようにしているものは減点1点

A 「天地挙げて過ち有るも」の訳……2点

※「挙げて」||「すべて。みな。こぞって」の意が欠けているものはマイナス1点

※B Cへ逆説でつなげていないものマイナス1点

B 「卒に」の訳……1点

※「ついに」のままや「とうとう」は。

C 「覆ひくされざる」の訳……2点

※「世界を」「天下を」といった対象が抜けているものはマイナス1点

※「おおう」要素と「のせる」要素の片方が欠けているものはマイナス1点

※「わずらわされない」のままはマイナス1点

D 「〜は何ぞや」の訳……2点

問三 6点

A 3点

過ちて能く悔い、

B 3点

悔いて能く改むる(もの)有り

採点のポイント

※すべてひらがなにしてしまったものは、すべて合っていれば2点とする。

※読み順のミス、脱字、余計な字(而)のあるものは 0点。

A 「過而能悔」の読み……3点

※「而」があるので、「過ちて」「過ても」のように「而」の働きの読まなければならない。

連用形「過ち」のままは×0点

※「悔」はヤ行上二段。「悔ゆ」は 0点

B 「有……悔而能改」の読み……3点

※「悔いて」になっていないもの(「悔い」など)はマイナス2点

ここは「悔ゆれども」のように逆接は×0点

※「改むる」が「改める」になっているものはマイナス1点

問四 8点

A 2点

過ちを犯しても反省して改める人を

B 3点

先後の行動に一貫性がないと批判する意見に対して、

C 3点

それは見識ある人のこととは言えないと言っている。

採点のポイント

A 「ある人」の「批判」「意見」の対象……2点

B 「意見（批判）」の内容……3点

C 傍線部の要素……3点

※ 「知言」のまま「知言とはいえない」はマイナス2点

※ 「どうして知言であろうか」のように訳のまま、「知言」のままは 0点

問五 7点

A 3点

財産を自分のものとして所有することは、

B 1点

言うまでもなく、

C 3点

本性を所有することには及ばないのである。

採点のポイント

A 「財の己に在るは」の訳……3点

B 「固より」の訳……1点

※ 「もともと」「もとから」は 0点

C 「性の己の有たるに若かざるなり」の訳……3点

※ 「本性」ではなく「性」のままではマイナス2点

問六 6点

A 2点

性失ひて復た得るを、

B 2点

其の性に非ずと曰ふは、

C 2点

可ならんや

採点のポイント

※すべてひらがなにしてしまったものは、それが合っていれば2点とする。

A 「性失復得」の読み……2点

※「を」が欠けて「く得る、」となっているものは 0点

B 「曰非其性」の読み……2点

※「く曰ふすら」は 0点

C 「可乎」の読み……2点

※「乎(や・か)」を読んでいないものは 0点

※「可なるかな」と詠嘆にしているものは 0点

問七 20点

A 3点

天や地が、天変地異の過ちがあっても、

B 2点

世界を覆い載せることに問題がないのは、

C 3点

常態に戻るからである。

D 3点

人間も当然過ちがあるが、

E 3点

大切なのは過ちがあっても反省し、改められることで、

F 2点

それは天から付与されている仁義礼智信の本性を、

G 4点

過ちによって失っても、取り戻して本来あるべきもとの状態に戻すということである。

採点のポイント

A 第一段落冒頭から傍線部1の「天地挙げて過ち有るも」までの要素……3点

※ここに「天変地異」の要素がないとBとのつながりがなくなるので欠けているものはマイナス1点

B 傍線部1の「卒にくされざるは」の要素……3点

C 「善く常に復すればなり」の要素……3点

D 第一段落の「人天地のく能はず」の要素……3点

E 第二段落の傍線部2「過ちて能く悔い、悔いて能く改むる」ことを大切とする要素……3点

F 「天五行をく之を有す」の要素……2点

G 第一段落末の「善く常に復す」、

第二段落の「前の非を咎めく復た挙ぐる」、

傍線部5「性失ひて復た得」るのも「本性」である、などの要素。